

第 1 回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

平成 29 年 8 月 9 日（水） 14 時～15 時 30 分

2 開催場所

県庁 10-総-1 会議室

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 准教授）

青矢 順子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

田實 澄恵（鹿児島県 P T A 連合会 副会長）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

徳永 伸一（鹿児島県国公立幼稚園・こども園協会 会長）

岩下 修一（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

(1) 「かごしま子ども未来プラン 2015」における「子どもの貧困対策」について

(2) かごしま子ども調査の結果及び今後の取組等について

5 委員からの主な意見

(1) 子どもの貧困については、乳幼児の支援が喫緊の課題と言われているが、義務教育を離れたときに、新たな課題が出てくるので、高校生も含めた対策ができないか。

(2) 子ども食堂のような形で、地域における子ども達の生活支援の取組を行っているが、子ども食堂と並行して学習支援ができるような形が必要

(3) 児童クラブにおいても、学習支援を行っているが、専門的な知識とか人材が不足しており、無料で学習支援ができるような充実した体制作りが必要

- (4) 学校行事が過度に増えて、働いている保護者が学校行事に参加する機会をなかなか作れない、ワークライフバランスの取組の充実が必要
- (5) 夕食を食べていない、一人で食べている子どもが存在しているので、子ども食堂のような民間の取組を行政として支援できないか。
- (6) 子どもの教育は、学習だけではなく、心の面もあるので、家庭でのコミュニケーションの機会を図っていくことが必要
- (7) 乳幼児医療費助成事業はとてもいい事業だが、周知徹底が必要
- (8) 相対的貧困は目に見えにくい方も多くいる、個人情報保護の中で、そこに入れていけるような環境作りが必要
- (9) 役場等で実施する無料の勉強会や家庭教師の人材について、毎年鹿児島県の各地でたくさんの教職経験者が退職するが、ボランティアでもやってもいいと思っている方が相当数いると思う。
- (10) 子どもの生活支援となっているが、子どもには必ず親がいるので、親がどういう生き方をされるかが子どもに大きな影響を与えるので、親の生活安定を同時に支援することが必要
- (11) 障害児を抱える家庭には生活困窮者が多いので、目を向けることが必要
- (12) 子ども会で行う体験授業では、参加費が必要になるが、参加費がかかるものには参加しないという保護者もいる。市町村からの補助がカットされつつあるので、予算への配慮が欲しい。

6 今後の予定

- ・年内に第2回目の会議を開催したい。

第2回子どもの生活支援対策部会結果

- 1 開催日時
平成29年11月20日（月） 13時10分～14時20分
- 2 開催場所
市町村自治会館 403号室
- 3 出席委員
前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 准教授）
青矢 順子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）
田實 澄恵（鹿児島県PTA連合会 副会長）
岩下 修一（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）
- 4 議事内容
 - (1) 第1回子どもの生活支援対策部会の開催結果について
 - (2) かごしま子ども調査対策事業の実施状況について
- 5 委員からの主な意見
 - (1) 親を支援すれば子どもの支援になるわけではなく、虐待などを考えれば、子どもの目線からの支援対策が重要
 - (2) 包括的な支援体制を作成する際に、一体化するのではなく、子どもの生活支援対策の明確な固有性が必要
 - (3) 学習の意欲支援はできるが、学習支援となると専門的な知識が必要であり、密な連携が必要
 - (4) 必要なものを必要な方に支援できる体制づくりが包括支援体制で必要
 - (5) 子ども未来プランでも貧困の部分を含めて子どもの人権を中核においたプラン作りが必要
 - (6) 子どもの気になる行動の背後には何らかの貧困という家庭の不安定な状況が想定されるので、貧困の位置づけと貧困が問題になる時期はいつなのかの見極めが必要

第3回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

平成30年8月10日（金） 午前10時30分～正午

2 開催場所

県庁行政庁舎7階 7-総-1会議室

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 准教授）

青矢 順子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

田實 澄恵（鹿児島県PTA連合会 副会長）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

徳永 伸一（鹿児島県国公立幼稚園・こども園協会 会長）

岩下 修一（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

- (1) 第2回子どもの生活支援対策部会の開催結果について
- (2) 鹿児島県の子育て支援行政に係る組織改編について
- (3) 子どもの生活支援対策推進連絡会議の設置について
- (4) 子どもの貧困対策計画の記載事業について
- (5) 既存事業の効果的な周知や今後の取組の検討について

5 委員からの主な意見

- (1) 子どもの生活支援対策を子どもの成長段階で整理した一覧表は、非常に分かりやすく、いい資料である。これらの生活支援対策について、重複等がないか、横の連携が必要なものがないか等、検証する必要があるのではないか。
- (2) 生活困窮者自立支援事業の任意事業については、地域により偏りがあるので、事業主体である市町に積極的に働きかけてほしい。
- (3) 妊娠期の支援も、子どもの生活支援対策に含めてよいのではないか。
- (4) 子どもの生活支援対策を県民に周知し、支援につながるよう、支援を必要としている子どもの周りの人たちがフォローしていくことが重要である。
- (5) 子どもの生活支援対策についてリーフレット等を作成し、周知する場合には、学校への配布が効果的と考える。
- (6) 必要な方が支援を求めやすくするため、リーフレット等には、支援の対象となった方々の実例を紹介したらどうか。

第4回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

平成30年11月21日（水） 午前10時30分～正午

2 開催場所

鹿児島県赤十字会館2階 クロススペースかもいけⅠ

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 准教授）

青矢 順子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

田實 澄恵（鹿児島県PTA連合会 副会長）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

岩下 修一（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

- (1) 生活困窮者自立支援制度に係る任意事業実施の要請について
- (2) 子ども食堂への支援について
- (3) その他

5 委員からの主な意見

- (1) 子どもの学習支援事業については、福祉部局と教育委員会が連携して取り組むことが必要。
- (2) 子どもの生活支援対策については、特に学校現場に知らせることが必要。
- (3) ここ数年で社会福祉協議会、児童養護施設などの連携が深まり、市町村の生活困窮者等への対応力も向上していると思う。
- (4) 貧困の要因の一つとして障害が考えられる。子どもの学習支援事業などで、支援の必要な子どもへの対応ができると良い。
- (5) 子ども食堂については、対象者を貧困家庭の子どもに限らず、地域作りなど幅広い活動に取り組んでいる場合が多いので、活動の趣旨が正確に伝わるよう周知することが必要。
- (6) PTAの研修で、子ども食堂の話聞き、良い取組だと感じた。子ども食堂には、支援を必要としている子ども達を支援につなげていける可能性がある。県の支援策に期待したい。
- (7) 地域による子ども食堂への支援を活かした県の支援策を期待したい。

第5回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

令和元年11月11日（月）午前10時～11時40分

2 開催場所

鹿児島県建設センター 505号室

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 教授）

青矢 順子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

田實 澄恵（鹿児島県PTA連合会 副会長）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

石原 義仁（鹿児島県国公立幼稚園・こども園協会 会長）

幸多 健次（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

- (1) 子どもの貧困対策計画（かごしま子ども未来プラン2020（素案））について
- (2) 子どもの生活支援対策周知・啓発事業について
- (3) その他（子ども食堂への支援について）

5 委員からの主な意見

- (1) 子どもの貧困率については、県独自に県内の子どもの貧困率を調査してはどうか。
- (2) プランについては、障害児を持つ家庭への支援も盛り込んでどうか。
- (3) プランについては、離島では、経済的負担が大きいなどの地理的特性にも配慮した、本県独自の内容が盛り込まれることを期待したい。
- (4) 子どもの生活支援対策周知・啓発事業により作成するリーフレット・ガイドブックの配布においては、必要な方が実際に手に取って活用していただけるよう、工夫していただきたい。
- (5) 中学生が自分の将来の希望が持てるガイドブックを作っていただきたい。
- (6) 子ども食堂に対する支援については、今後とも継続していただきたい。

第6回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

令和2年10月20日（火）午後1時～2時30分

2 開催場所

鹿児島県青少年会館 大ホール

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 教授）

宮下 恵子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

田淵 千春（鹿児島県PTA連合会 副会長）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

石原 義仁（鹿児島県国公立幼稚園・こども園協会 会長）

幸多 健次（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

- (1) 子どもの貧困対策計画と令和2年度新規事業について
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策のための事業について
- (3) 子どもの生活支援対策周知・啓発事業におけるガイドブック等の作成について
- (4) その他

5 委員からの主な意見

- (1) 離島からはオープンキャンパスに行くのにも高額な旅費がかかる。渡航費や移動費の補助など、離島の現状を踏まえた施策を検討していただきたい。
- (2) 子育て世代包括支援センターのように、ひとつの窓口が出産前から経済的な支援とセットで親の支援に取り組むのは重要。
- (3) 放課後児童クラブも幼児教育・保育の無償化のような取組を求めたい。
- (4) 中学2年生が「かごしまの子どもたち未来応援ガイドブック」にアクセスするためには、生徒に身近な先生の役割等が重要。
- (5) 鹿児島の魅力を中学2年生に伝えるのは重要なため、伝え方には工夫してほしい。

第7回子どもの生活支援対策部会結果

1 開催日時

令和3年10月21日（木）午前10時30分～正午

2 開催場所

鹿児島県青少年会館 大ホール

3 出席委員

前田 晶子（【部会長】鹿児島大学教育学部 教授）

宮下 恵子（鹿児島県子ども会育成連絡協議会 理事）

白鳥 浄子（鹿児島県児童養護協議会 会員）

石原 義仁（鹿児島県国公立幼稚園・こども園協会 会長）

下園 和靖（社会福祉法人鹿児島県保育連合会 会長）

4 議事内容

- (1) 全国の子どもの貧困の状況について
- (2) 令和3年度子どもの生活支援対策事業について
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策のための事業について
- (4) その他

5 委員からの主な意見

- (1) 子どもの貧困について有効な施策を講じることができるよう、まずは貧困の実態を調査する必要がある。
- (2) 貧困の改善を図るためには、支援策の周知と併せて、自己が貧困との認識がない児童もいることから、支援を必要とする保護者や児童にあっては、支援を受けることの意義について意識改革を図る必要がある。
- (3) 子ども食堂を入り口として、様々な支援の取組と繋げて、地域社会全体が子どもを育てていくという認識をもう一度取り戻すことを目指していきたい。